

令和 4 年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

	課題番号	21476926
研究テーマ名	地域農業の持続可能性の向上に向けた農業法人の総合的企業価値の評価手法の開発に関する研究	
委託研究課題名	企業価値評価手法を活用した農業法人の経営評価手法の開発	
研究実施期間 （西暦）	2021 年度 ～ 2023 年度（3 年間）	
中核機関・ 研究総括者	株式会社事業性評価研究所 代表取締役社長 田井政晴	

1 研究の進捗状況等

事業分析手法の構築と、企業価値評価手法の開発が終了し、試行的評価を通じて適切な意見交換を踏まえた評価精度の向上を図る段階となった。特に定性的な事業価値の分析手法や、ESG 要素の分析のための整理、企業価値評価手法の開発の各段階において、企業評価の実務家や精通者の意見を幅広く聴取することで、評価のための指標作成の試案が完成している。農業法人に対する試行的評価では、経営形態や経営多角化状況において特色ある農業法人を中心に選定を行い、予定していた 10 の営農類型のうち、本年度中に 6 割の調査が終了した。来年度実施する試行的評価先の選定も済んでいる。

① 農業法人の事業分析手法の構築

外部有識者からは、営農類型ごとに検討すべき項目は明確になったが、重要課題の抽出（評価項目の重みづけ）には更なる検討が必要であるとの指摘があった。例えば農業と畜産農業に共通な経営的要素と、営農類型ごとに精査すべき調査項目の整理が必要になる。調査項目は網羅的に検討されているが、財務パフォーマンスに影響を与える可能性が高いサステナビリティ課題の特定が必要である。今後は試行的評価対象先の農業法人との意見交換を通じて、個々の経営課題を共有しながら、課題の特定と企業戦略への反映プロセスに注目したい。

② 農業法人の企業価値評価手法の開発

農業法人の企業価値評価を求めるために、実際の農業法人を選定して試行的評価を行った。手法の開発にあたり、評価概念と評価目的に適合した適切な評価アプローチを選択し、評価実務で重視される留意点（提供された資料の検証、将来予測の不確実性制への配慮、企業価値向上に取り組む経営者との対話）を踏まえて具体的な評価手続を行っている。事業経営は規模の大小にかかわらず持続的運営が重要課題であり、農業法人に関わる様々な利害関係者に対して還元される価値であると理解している。

③ 事業分析と企業価値評価を活用した農業法人の試行的評価

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と、家畜伝染病の侵入防止のために、農業法人に対する実地調査計画は幾度の修正を余儀なくされたが、研究実施期間中に予定する 10 の試行的評価先（農業類型別に抽出）のうち、本年度中には 6 先の調査を終えている。このうち 3 先では試行的評価が完成し、残る 3 先についても当該法人の最新の決算報告書を待って完成する見込みである。また来年度に実施予定の 4 先の試行的評価先の選定も済んでおり試行的評価に必要な準備は整っている。